平成２７年度

第６回岡山市基本政策審議会

会議録

日時：平成 27 年 10 月 19 日（月）14：00～16：00

場所：岡山市役所本庁舎３階第３会議室

平成27年度第6回基本政策審議会　出席者

阿部　典子（あべ　のりこ）	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
泉　史博（いずみ　ふみひろ）	株式会社中国銀行相談役
岡本　玲子（おかもと　れいこ）	岡山大学大学院保健学研究科教授
梶谷　俊介（かじたに　しゅんすけ）	岡山商工会議所ビジネス交流委員会委員長
片山　浩子（かたやま　ひろこ）	NPO法人岡山市日中友好協会会長
越宗　孝昌（こしむね　たかまさ）	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
小松　泰信（こまつ　やすのぶ）	岡山大学大学院環境生命科学研究科教授
小山　旭（こやま　あきら）	岡山市連合町内会副会長
塩見　槙子（しおみ　まきこ）	岡山市連合婦人会会長
杉山　慎策（すぎやま　しんさく）	就実大学経営学部学部長
髙旗　浩志（たかはた　ひろし）	岡山大学教師教育開発センター教授

敬称略五十音順

平成２７年度第６回岡山市基本政策審議会議事録

平成２７年１０月１９日（月）

開会

１　開会

○事務局（植月）　定刻がまいりましたので、ただいまより平成２７年度第６回岡山市基本政策審議会を開会いたします。開会にあたりまして越宗会長よりご挨拶をお願いいたします。

２　会長あいさつ

○越宗会長　越宗でございます。委員の皆様には本日もお忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。本日は平成２７年度第６回の岡山市基本政策審議会でありますが、昨年度から通算しますと８回目の審議会になります。

前回までは、分野別あるいはテーマ別で、現状と課題でありますとか、長期的な方向性等につきまして、各論で皆様にいろいろとご議論いただいたわけでありますけれども、今日から３回にわたりまして、１１月下旬の答申とりまとめに向けてご議論をいただくことになっております。本日はその第１回目ということでありまして、平成２７年度の市民意識調査と市民の皆さんの意見等も踏まえまして、岡山市のまちづくりの基本的な方向性、あるいは目指すべき都市像等、新たな総合計画の特色や性格づけを含めまして、まちづくり全体にわたる総論の議論をしていただきたいと思っております。

２時間という限られた時間ではありますけれども、委員の皆様それぞれのお立場から活発なご意見をいただきまして、実りのある議論にしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（植月）　続きまして本日の委員の皆様の出席状況ですが、４名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお基本政策等に関する審議会設置条例第６条第２項に規定する委員過半数の出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。申し遅れましたが本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは本審議会設置条例第６条第１項により、本審議会の議事進行につきましては越宗会長にお願いいたします。

○越宗会長　それでは会議次第に沿って議事を進めてまいりたいと思いますけれども、まず議事に入ります前に、いつものように傍聴の取り扱いについて事務局から説明をお願いします。

○事務局（植月）　はい。本日は現時点で傍聴希望者が３名いらっしゃいます。特に支障

がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、この審議会を公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長　いつものことでありますが、本日の審議につきましても特に傍聴が支障になるような事由はないと思われますので本会議を公開にしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○越宗会長　はい。それでは本日の会議、傍聴を許可したいと思います。また、これから以降来られる場合にも、そのように扱っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局（植月）　はい。それでは入っていただきます。

３　協議事項（１）長期構想の基本的な考え方について
○越宗会長　それでは議事に入ります。協議事項１の「長期構想の基本的な考え方」について、これから協議をしてまいりたいと思います。まずは事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（門田）　はい。事務局の総合計画課の門田でございます。恐れ入りますが座って説明させていただきます。よろしくお願いいたします。
　お手元にある資料１、資料２、この２つの資料でご説明させていただきたいと思いますが、最初に資料２から説明させていただきます。資料２でございますが、まず市民意識調査、今年１８歳以上の市民 1 万人の方を対象にアンケート調査を実施いたしました。現在結果を取りまとめ中でございますが、総合計画に関わりの深い部分を抜粋してご報告をさせていただきたいと思います。まず左上のところに、住み続けたいと思うかどうかというグラフが載っております。平成２７年の最新の数字でみますと、７９．２％の方が住み続けたいと答えておられます。これを年代別に見たのが右側でございまして、赤い折れ線が住み続けたいというグラフですけれども、２０歳代が６４．７％ということで低くなっております。また、住みたくないというほうを見ますと、３０歳代のところが一番高くなっております。こうしたことから２０代、３０代をはじめとした若い世代に住み続けたいと思ってもらえるようなまちづくりが課題だと考えております。
　また、住み続けたい理由を左下、住みたくない理由を右下に掲載しております。住みたくないと答えた方は１６４人ではございますが、岡山市の課題を浮き彫りにするうえでは

参考になるのでないかと思って見てまいりますと、住みたくない理由の１番上は交通の便が良くない、２番目は人間関係が良くない、ですけれども、注目すべきは３位以下のところでございまして、都会的な魅力がない、経済的な活気がない、それから少し飛びまして、楽しい遊びができない、文化的刺激が乏しい、スポーツ・レジャー施設が少ないといった都市としての賑わいとか活気に関する項目が並んでいることが目を引きます。一方でこれらの項目については、住み続けたいと答えた方にも聞いているんですけども、ご覧のように都会的な魅力があるとか文化的な刺激が豊富とか、そうしたものが下のほうに、もう２％を切るようなところに並んでおりまして、住んでいる人もこうした賑わいとか活気といった要素に関しては物足りなさを感じている可能性があるということが示唆されるのではないかと思っております。

続いて２ページをご覧ください。岡山市の行政施策全般に対する満足度を聞いております。満足度の推移が下側の折れ線に載っておりまして、平成２７年は満足、やや満足と答えた方が２３．１％になっております。年代別に見たものが上のグラフでございます。この中で３０歳代、４０歳代のところが、やや不満のピンク色と、不満という紫色を足した値が高くなっております。３０歳代では２６．７％、４０歳代では２５％の方が、不満、やや不満と答えておりまして、このあたりの満足度を高めることも課題だと考えております。

３ページをご覧ください。岡山市の行政施策に対する市民の満足度、重要度をお聞きしたものを並べたものでございます。これはＸ軸に満足度をとって、Ｙ軸に重要度をとって、その相対的な位置によって分けたものでございます。この中でＡ群に属するところが、重要度は相対的に高いけれども、満足度が相対的に低いという項目が、市民意識の面から見た課題ということになってまいります。このＡ群には防災や生活安全、子育て、教育、福祉などが入っておりますが、これらと合わせて、先ほど住みたくない理由の１番に交通が挙がっておりましたが、自転車とかバスや鉄道などの公共交通、道路とか、こういう交通に関する項目が軒並みこのＡ群に属しております。

それでは４ページをご覧ください。左側に大きな方向性として、どんな分野に力を入れるべきかをお尋ねしております。一番多かったのは健康・医療・福祉で、これはもう全世代にわたって高くなっております。教育が２番目に多いんですが、特に４０代、３０代では５０％を超えて高くなっております。続いて安全・安心、そして４番目が子育てなんですが、実はこの子育ては平均すると３５．４％ですけれども、３０代だけを見ますと６０．７％の方が重要だということで、３０代としてはここが一番重要だと考えております。２０代の方も４９．５％が重要ということで、このあたりが先ほどの２０代、３０代、４０代の方々の意識のあるところが、この教育・子育ての分野だということが伺えるかと思います。それから右側のところに、今後どのような視点を大切にしてまちづくりを進めるべきかということで、超高齢化や人口減少、災害への備え、人づくりといったものが並んでおりますが、５番目のところにはやはり交通というのが出てきております。

続いて５ページをご覧ください。市内４カ所でまちづくりワークショップを行いまして、合計１０９人の方に参加いただきました。そこで出た意見でございます。３つのテーマについて話し合っていただきました。まず「住み続けたい岡山」というテーマでは、中心市街地の回遊性の向上、歩きたい街づくり、コンパクトシティ、交通の便、といったものが出てきております。それから都市のブランド化でイメージアップとか、企業誘致といったことも出てきておりますし、下のほうには地域コミュニティの充実といったことも出てきております。テーマ２の「元気な岡山」につきましては、岡山といえばこれ！というものを打ち出す、市民が岡山を知り自分の街を自慢する、岡山の知名度向上、岡山の素晴らしさをどんどんＰＲする、といった岡山の良さをもっと発信するべきだという主旨の意見がたくさん出てきております。また、先ほどと同じようにコミュニティに関する意見も出てきております。それからテーマ３の「人を育む岡山」というところでは、国際教育・家庭教育の充実といったことに加えまして、岡山市民として自信と誇りを持つ教育、それから自分のまち、岡山の良いところを知り説明できる、といった、先ほどの発信に関わるようなものが出てきております。それからコミュニティに関連したものとして、世代間交流を増やすといったことも出てきております。子育てしやすい環境づくりといった意見も出てきております。

続いて６ページをご覧ください。若者１００人ワークショップということで、高校生から概ね４０歳までの市民の方を対象に実施いたしまして、８８人の方に参加をいただきました。５つのテーマについて話し合っていただきました。「外に向けて自慢できる岡山」ということに関しては、適度な田舎、適度な都会を保ち、暮らしやすさを実現する、それから、地元への愛着や関心をしっかり持ってもらう、といったような意見が出ました。それから、「にぎわいがあり、若者が集う岡山」ということでは、やりたいことができるまち、それから、「国際感覚豊かな人材を生む岡山」では、出る杭打たれる文化の変革といった意見も出ました。それから、「女性が輝き、子育てしやすい岡山」では、子どもは地域で育てるという意識の醸成が大切だといったような意見が出ました。「若い力でつくる岡山」というテーマでは、地域のことを学んだり、担い手になれる機会を作ることが大切だといったような意見が出てきたところでございます。

７ページでございますが、これは民間が実施した地域ブランド調査の結果でございます。指定都市の順位で言いますと、岡山市は認知度が１６位、魅力度が１５位、ひとつ飛びまして住んでみたいかどうかということでは１７位とか、観光意欲度では１５位といったような結果が出ておりますが、広島などに比べると順位が低くなっておりますし、よく類似都市として比較される熊本市と比べましても低くなっております。岡山市の位置は全体として見ますと、大都市圏の衛星都市である、さいたま市とか、千葉市とか、相模原市、堺市、そういったところと割と似たような順位づけとなっておりまして、地方の拠点都市としてはいささか都市イメージが弱いのかなというような結果になっております。

それでは資料１のほうに移らせていただきます。表紙をめくっていただきまして、１ペ

ージをご覧ください。先ほどのワークショップでのご意見や、市民意識調査の結果等も踏まえて、それから市の職員の中でもディスカッションを行いまして、市民感覚からみた岡山市の課題というものをまとめてみました。課題といたしましては、左のところにありますように、本気でやらなくてもなんとかなってきたという意識があるのではないか、現状にある程度満足しているが、反面チャレンジしないという課題があるのではないか、住みやすいけれども、まちに誇りが持てない、自信が持てない、知名度が低い、いろいろと中途半端と感じる、悪くはないけど特徴がない、こういった課題が出てきております。もちろん右側にありますように、まちの魅力、よく言われている住みやすさの面と、中途半端かもしれないけれども、ほどほどに都会で、ほどほどに田舎なところが良いという肯定的な意見も、もちろんたくさんございました。ただ、それに一応満足はしていても、いざ胸を張って岡山の良さをＰＲができるかとか、岡山自慢ができるかということになると、トーンダウンする市民の方が多いねと、多くの市民の方に似たような心当たりがあるのではないとかということでございます。その原因として、一つには岡山市のことをあまり知らない、外向けに発信しないということもあるでしょうけれども、基本的には誇りを持って発信すべき特徴にやや欠けているのではないか。中途半端というべき実態があるのではないだろうかというふうに感じているところでございます。そのほかの課題として、観光面などにつながるものとして、おもてなしの精神が弱いとか、ほかに内向きで視野が狭いといったことも挙がっております。こうしたことを踏まえまして、住みやすさを生かしつつ、変えるべきものを市民と行政が手を携えて、本気で取り組んでいく必要があるということ。それから先ほどの中途半端さでございますが、その感じる原因はなんなのかということを考えていきますと、一つには都心の賑わいが不足しているのではないか。街並み、風格に欠けているという指摘もございます。それから公共交通等の交通面が弱い、あるいは観光文化面での弱さ、そういったことを総合した結果かもしれませんが、都市イメージが弱い、先ほどの都市ブランド調査でも見られたようなことにつながっているのではないかという問題意識を持っているところでございます。

では続いて２ページをご覧ください。そういった課題意識を踏まえた、新たな総合計画の方向性でございます。今の総合計画である都市ビジョンは、政令指定都市移行と同時にスタートいたしておりますが、すでに７年が経過しております。その間、行財政改革も一定の成果をみたところですし、近年は人口減少問題への対応が国家的課題として浮上しております。岡山市のような地方の拠点都市は東京一極集中を食い止める地方の砦として、圏域全体の発展を牽引する役割も期待されております。それから先ほど市民意識でみましたように、特に２０代から４０代を中心に子育て・教育に対するニーズも大きくなっております。東日本大震災の影響とか台風による浸水被害などもありまして、市民の防災への意識も高まっております。また昨年はＥＳＤの世界会議も成功しまして、それを受けたまちづくりということも求められているということで、こうした時代の変化や要請を踏まえながら、また先ほど申し上げた、いろいろと中途半端と感じるという市民の課題意識とい

うことも踏まえまして、今後の方向性としては市民が変化を実感できる１０年にしていきたいと。都市ビジョンの中では、「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」ということで、美しい、安定的なイメージというものを出しておりましたが、そういうものは大切にしながらも、活力とか躍動感といった、まちを変えていくという動きのあるイメージを付け加えていく必要があると感じております。もちろん、その際には、中心部と周辺部のバランスの取れた発展も大切にする必要があると考えておりまして、全体としては市民が誇りと愛着を持てるまちを目指していきたいと思っております。

続きまして３ページをご覧ください。今申し上げたまちづくりの大きな方向性を踏まえながら、岡山市のまちづくりの主要課題を整理したものでございます。上２つの囲みがまちづくり全般を通じた重要課題でございます。まず人口減少問題につきましては、岡山市が今後１０年の長期構想期間中に人口減少期に突入する見込みであると。中長期的には生産年齢人口が減少していくということがあります。東京圏等への人口流出の歯止めのためにも若い世代の岡山への定着ということが大きな課題となってございます。また人口減少や超高齢社会を見据えた都市構造の転換も求められております。２つ目の囲みですけれども、岡山市らしさ、地域資源を生かしきれていないのではないか。市民の誇りや愛着が弱く、発信力が不足しているといった課題がございます。３つ目の囲みでございますが、地域経済の活性化等でございます。産業振興に向けた戦略性が必要ではないかということ。農業の担い手不足の問題もありますし、市街地の拡散による岡山市全体の発展の核となる中心市街地の活力、賑わいが不足しているのではないかという課題がございます。観光の誘客、受け入れ力が弱い。公共交通の利便性の向上も課題となっております。そして拠点都市としての広域的役割の拡大も期待されているところでございます。これらの課題が、後ほど将来都市像Ｉとしてお示しする、目指すまちの姿につながっていく課題になると考えております。４つ目の囲みのところでは、子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性などの市民の力の発揮ということで、結婚、妊娠、出産、子育ての希望がかなう環境整備が課題である。学力の向上、問題行動、不登校への対応という課題もあります。それから若者、女性をはじめ、多様な人材が活躍しやすい環境づくりも求められております。ＥＳＤ活動など多様な主体の力を活かしたまちづくりや地域課題の解決も必要になっておりまして、これらの課題が後ほどお示しする、将来都市像Ⅱにつながっていく課題になると考えております。最後の囲みのところでございますが、安全・安心に対する市民の意識の高まりということで、頻発する集中豪雨や巨大地震の発生の危険もありまして、市民の防災意識が高まっている。そして、高齢化に伴って、医療・介護需要が増加している。医療・介護のコストを抑制するためにも、健康づくりや生涯現役サポート、こういったものも重要になってきておりまして、これらの課題が将来都市像Ⅲにつながっていくと考えております。

４ページをご覧ください。岡山市の強み、特性をまとめてございます。１番上は高次な機能集積、中四国の交通のクロスポイントにあるということ。２番目は災害が少なく温暖な気候に恵まれ、豊富な医療・介護資源があるという、よく言われていることが上２つに

ございます。それから３番目の地域資源の面では、古代吉備王国の繁栄の歴史を間接的に伝える桃太郎伝説とか吉備団子等の地域資源、城下町岡山の歴史とそのシンボルである後楽園の存在、国指定史跡も非常に多くなってございます。４番目の産業面では、卸売・小売業や医療・福祉産業など第３次産業中心の産業構造になっている。一方で白桃やマスカットなどの全国ブランドの果物もあり、全国有数の農業都市となっている。最後のところは地域活動が活発で、ＥＳＤの先進地区となっている。こういった強みを生かしたまちづくりを進めていく必要があると考えております。

５ページをご覧ください。以上みてきたような岡山市の総合計画の大きな方向性ですとか、課題や強みなどを踏まえまして、長期構想の中で３つの将来都市像を設定してはどうかと考えております。１つ目の都市像といたしましては、先ほど申し上げた活力とか躍動感など、動きが感じられるまちづくりを進めるという観点から、国内外から人を呼び込む魅力と活力あふれる「経済・拠点都市」という都市像を掲げてはどうかと考えております。都市像の１つ目の要素は地域経済の成長ということで、岡山市の持つ優れた立地条件や都市機能集積等の強みを生かした産業の育成や地域経済の活性化で、国内外から人や企業を呼び込み、活力あふれる都市を目指したいと考えております。取組の例といたしましては、ヘルスケア産業など戦略的な産業振興、桃太郎伝説・岡山城・吉備路などを活かした観光振興、都市ブランド力の強化、ＵＩＪターンの促進などを想定しております。２つ目の要素といたしましては、都心部のにぎわいの創出ということで、中心市街地の魅力とにぎわいを創出し、交流を活発化することにより、市域全体の発展を牽引する原動力としたいと考えております。取組の例といたしましては、岡山城の活用など歴史・文化ゾーンの魅力の向上、歩行者優先の歩いて楽しい空間づくりなどを想定しております。３つ目の要素としては、地域とつなぎ、魅力をつくるということで、コンパクト化とネットワーク化の都市づくり、公共交通で都心と地域をきちんと結んでコンパクト化とネットワーク化の実現を目指したいと考えております。取組の例としては、バス・鉄道等の公共交通の利便性の向上といったことが想定されます。また周辺地域が生活機能を維持しながら、地域資源を活かし個性を発揮する、彩り豊かな多様性のある都市を目指したいと考えております。それから４つ目の要素といたしましては、圏域の発展を牽引するということで、高次都市機能の集積を活かして、関係市町と連携しながら圏域全体の発展を力強くリードする拠点都市を目指したいと考えております。取組の例といたしましては、連携中枢都市圏構想の実現、瀬戸内４県都連携などを想定しております。

６ページをご覧ください。２つ目の都市像といたしましては、若者や女性の活躍ということも含めまして、まちの担い手である人に着目してはどうかと考えております。１つは子育て・教育などの人を育むということ、もう１つは人が拓く、開拓するということで、文化やまちの未来を創造し、継承発展させていくということを念頭に置きまして、未来を生きる豊かな人間性と創造力を育む「文化・教育都市」という都市像を掲げてはどうかと考えております。都市像の１つ目の要素は、新たな文化の創造・発信ということで、岡山

市固有の歴史・文化をまちづくりに活用するとともに、さまざまな交流を通じて新たな文化を創造し、国内外に積極的に発信する都市を目指したいと考えております。取組の例といたしましては、仮称ですが、岡山国際現代芸術祭の定期開催、新しい文化芸術施設の整備などを想定しております。２つ目の要素としては、子育て環境の充実ということで、子どもを産み育てやすい環境が整い、若者世代が定着し、若者・女性の大きな人材力を活かす都市を目指したいと考えております。取組の例としては、潜在的保育・子育てニーズへの対策を想定しております。３つ目の要素としては、岡山型で教育力を高めるということで、こども園・保・幼・小・中の学びの連続性を大切にしつつ、学校・家庭・地域社会が協働して教育力を高めることで未来を拓く人材が育つ都市を目指したいと考えております。取組の例といたしましては、岡山型一貫教育による学力の向上や地域協働学校の推進を想定しております。４つ目の要素でございますが、市民主体の都市ということで、多様な担い手が協働・ＥＳＤの理念に基づいて、まちづくりに参加する市民主体の都市を目指したいと考えております。取組の例としてはＥＳＤの活動促進と国内外への情報発信などを想定しております。

３つ目の都市像といたしましては、安全・安心の要素や環境との調和など、市民生活のベースをきちんと守り整えていくということで、安全・安心で健やかに暮らし続けることができる「環境・福祉都市」という都市像を掲げてはどうかと考えております。都市像の１つ目の要素は、健康で安心して暮らすということで、生涯を通じて健康でいきいきと活躍でき、豊富な医療・介護資源を活かして、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる都市を目指したいと考えております。取組の例といたしましては、健康寿命の延伸、生涯現役社会づくり、在宅医療・介護の推進などを想定しております。２つ目の要素としては、安全に万全を期すということで、都市基盤の計画的な整備、地域における自主的な活動を通じて、大規模化する自然災害等への備えに万全を期し、市民の暮らしの安全・安心が確保された都市を目指したいと考えております。３つ目の要素としては豊かな自然を引き継ぐということで、低炭素・循環型の社会を推進し、市民一人ひとりが環境に配慮した行動を実践することで、多様な自然環境と調和した豊かな暮らしを将来世代に引き継ぐ都市を目指したいと考えてございます。

以上説明させていただきましたのが、市として長期構想の総論部分に当たる内容となります。本日のご議論を踏まえて、次回以降、文章化したものをお示ししたいということと、またこの３つの都市像をもとに、より具体的なまちづくりの基本的方向、分野別各論についても方向をお示ししていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

○越宗会長　はい。ありがとうございました。ただいま事務局から長期構想の基本的な考え方についての説明がありました。これまで長期構想について、委員の皆様のさまざまな議論の取りまとめという形でもありましょうけども、ここまでまとめていただいた事務局

の労を察したいんですけども、これから皆さんに、よりよい答申に向けて、建設的な、忌憚ないご意見を、全体でもよろしいですし、個々についてでもよろしいので、遠慮なくご発言いただいて、これから先の作業に生かしていきたいと思います。どなたからでも順不同で結構なんですけれども、どんどん発言をしていただければと思います。まず口火を切っていただければ。はい、どうぞ。

○小松委員　２点お尋ねします。資料１の６ページに、前回も、育む・拓くで、岡山型の教育力を高めるための例で岡山型一貫教育が出ていたんじゃないかなという気がするんです。僕のうろ覚えかもしれないですけども。それが具体的に何なのかという説明、こういうものですという説明が出ていないということと、地域協働学校って非常に魅力的なんだけど、それについてはどういうことをイメージされているのかということです。

もう１点、４ページ目の岡山市の強みと特性を活かすというところで、私自身が岡山に来て１９年で、立地条件のよさ、住みやすさ、バランスのとれた産業構造のところまでは、とりあえずそう認めたいんです。ただ市民力の高さについては、低いとは思わないけれども、特段高いとはまったく思っていないんです。普通。市民力の高さのところに、地縁組織の活発な活動とありますけれども、こういうものを促進させていくための、いろいろな手だてがあるといいなと思っているんですけど、何で市民力の高さがここに挙がったのかということと、地縁組織の活発な活動とは具体的にどのようなことをお考えなのかということを教えてください。すいません、以上です。

○事務局（門田）　最初のご質問で、岡山型一貫教育というのは、中学校区を単位にして、その中にある保育園とか幼稚園とか小学校とか中学校が連携を保って、こんなカリキュラムでやっているよということをお互いに、先生同士の間でもやりとりをしたりして、中学校区でみたときに、ずっと学びの連続性が保てるような配慮をしているということがございます。あと地域協働学校については、保護者と地域住民と学校との間で運営協議会といったものを設けまして、学校の運営方針とかに保護者の方も意見を言ったり、取り組んでおりまして、こうすることで保護者と先生と住民との間でお互いに顔が見える関係というのも築きやすくなり、そういったことを通じて地域全体で教育力をアップするということでございます。相まって中学校区単位でやっていくというのが岡山市の特色となっております。それが１点目でございます。

それから先ほどの市民力のところで、確かに市民力の高さについてはデータで比較できるものでもないので、どうして岡山市が高いのかということですけれども、安全・安心ネットワークというような、連合町内会とかが中心になっていただいているんですけれども、いろんな地縁組織を集めて、安全・安心ネットワークという組織をつくって、お互いにその関係機関がやりとりがしやすい環境をつくって取り組みをしております。そういった動きがちゃんとあると。もちろん活発な地域と、そうでない地域があるのは事実ですが、そ

ういった活動もしているということでございます。それからＥＳＤは、去年世界大会まで開いたということで、そういう先進の取り組みをしているということで、全体としては市民が手を携えてまちづくりをしている動きというのは、割と活発なのではないかという認識のもとに書かせていただきました。

○小松委員　はい、結構です。

○越宗会長　いいですか。どの分野から切り込んでいただいても結構ですので。じゃ、お隣の片山委員さん。

○片山委員　今、小松委員さんから出ました教育の問題ですが、教育都市と掲げるのであれば、学力も一つの大きな目標になるのではないかと思います。これは新聞で読んだのですが、全国順位からいくと学力学習状況調査の場合、小学校が２０位台の後半、中学校が４０位台のはじめという位置にある。これは岡山県全体のことだと思うのですが、かなり下のほうにあると思います。また、学校での暴力問題、不登校、いじめの問題、こういったことも多分全国的な問題ではあると思うのですが、暴力問題などは岡山は多いということも聞いております。教育都市として、いい教育を目指してほしいと思いますけれども、現実がこれだけあまりいい状況ではないという場合、岡山型一貫教育も地域協働学校などもいいのですが、もう少し深く堀り下げて、問題に対して厳しい対策といいますか、そういったものも含めたうえで教育都市を目指してほしいと思います。若い方たちが岡山に来て住みたい、地域に住みたいという場合、子どもさんの教育ということが大変大きなポイントになってくると思います。ですから、岡山は教育県と言われてきましたように、実際にいいんだと自信を持って言える、いい教育ができているということが言えないと、若い方たちの移住、または定住というものも難しくなってくるのではないかと思います。そういうことで問題の早期対応とか、または未然防止といったこと、また人権教育や道徳教育など、のことも織り込んだ具体的な対策というのをお願いしたいと思っております。

○越宗会長　はい。いかがですか。はい。

○阿部典子委員　市民意識調査を見せていただいて、すごく面白いなと思いました。３０代、４０代の方が自分たちの生活にやや不満、不満が多いというのは、私たちも岡山県内のいろいろな調査をさせていただいている感覚からしても、そういうふうになってしまうということは強く思います。同時に今回、まちづくりワークショップという形で、高校生以上の市民のワークショップをされていることがすごくいいなと思うところです。これから必要な市民力をつくるとか、ＥＳＤ、持続可能なまちづくりを考えるという場合、団塊の世代とか、上の世代の方の地域づくりやまちづくりに対して、若い人たちがどこか他人

事になってしまっている感覚というのは、２０代、３０代には多いのかなと思います。そういう意味では、あえて若者の意見を聞く、たとえば１００人会議のようなものは、この総合計画をつくられるというタイミングだけではなくて、これからも定期的にやれることではないのかと思います。たとえば総合計画をつくった後に、定期的な市民サイドでの見直しとか、点検とか、そういったこともすごく大事になってくるんだろうと思います。

市民感覚からみた岡山市の課題というのが、資料１の１ページにありますが、生活者の感覚に表していると思うのが、街の魅力のところに中途半端かもしれないけど、それもいいということです。こういうことというのは、何か突き抜けるものが必要だという部分ももちろんあると思うんですけど、中途半端の良さを自分が説明できるとか、なんで岡山市が良いのかを知っているとか語れるとか、そのことがが先ほどの地域のことについて勉強したり、地域の情報に詳しくなるとか、そういうことにつながると思うんです。中途半端かもしれないけど私は良いところを知っている、ということをもっと声高に楽しそうに言えることが必要かもしれないというのを、今回の調査を見させていただきながら感じました。

○越宗会長　はい、杉山委員、どうぞ。

○杉山委員　３つの大きな方向にまとめていただいて、本当に大変だったろうなと思います。最終的にはどうやって岡山を知ってもらうのかということで、その点で結構岡山は辛いところがあります。岡山県が岡山って使っていて、岡山市も岡山なんです。これが倉敷だと岡山県は邪魔にならないので、何をやっても構わないのですが、岡山県と岡山市がせめぎ合うと、岡山を離れたとたんに混乱します。したがってコミュニケーション戦略を考える場合、これは本当に難しいことだと重々承知していますが、岡山県と岡山市が一体となってやらないと下手したら相互に殺し合う、効果がゼロになるという可能性が非常に高い。岡山市は県の３分の１以上を占めていて、広域連携を含めたらほとんど岡山県は岡山市なので、岡山県と一緒にどういうコミュニケーション戦略を取るのかということをぜひ考えていただきたい。その際は、やはり何かとってつけたようなことではなくて、桃太郎とか、分かりやすいものをぜひ中心に置いて進めていっていただくのが一番いいだろうと思います。

それから２番目に、多分最終的に取り上げられる方向になってくると思いますが、私は４０年くらい経って岡山に戻ってみて、やはり林原美術館とか、県立美術館とか、オリエント美術館、それから後楽園、岡山城というのは相当すごいものだと思います。カルチャーゾーンという名前がいいのかどうかというのはちょっと議論の余地があるかと思いますけれども、それをうまく打ち出して、それに現代アートをつけていくというのは非常に良いアイデアだと思います。これを１つの柱にして打って出るということがすごく大切だろうと思います。もう一点、僕は津山市の委員もしていますが、津山市では小中学校の生徒

には津山洋学資料館に行かせるようにしているようです。ですから、できれば岡山市の小中学校の生徒は必ず年に１回は林原美術館やオリエント美術館、岡山城と後楽園に行くようにし、もちろんその際には、学芸員とか専門家の先生たちがついてしっかり説明をする。そういう自分たちの街にプライドが持てるような、郷土に誇りが持てるような活動を地道にぜひやっていただきたいと思います。

○越宗会長　はい、どうぞ。

○岡本委員　失礼します。資料１、資料２を見せていただいて、すごくまとまってきたと思っています。その中で３点ほど意見を言わせていただこうと思います。まず資料１の２ページのところで、方向性として、いままでの静というイメージから活力と躍動感の動的イメージへと書かれていて、ここがとてもいいと思いました。そういう方向にいくと本当に活気のある岡山になるだろうとすごく感じました。そう思いつつ、下の市民が誇りと愛着を持てるまちへというところを見ると、市民が個々に誇りや愛着を持つという、そこに留まっているような表現のように思えて、何となくここを見るとまだ内向きで、個人的でという印象を持ちました。誇りと愛着という、同じような感覚のニュアンスの言葉だと思うので、発信だとか交流だとかアイデアだとかチャレンジだとか開拓だとか、もう少し動的なイメージのあるメッセージを入れるといいのではと思いました。

それから２点目、３ページになりますが、時代の潮流と課題認識の、１番下の将来都市像Ⅲにいたる部分の課題のところでは、安全・安心に対する市民意識の高まりと書いていただいているんですけれども、市民意識調査の結果などを見ると、健康・医療・福祉というのが断トツで高かったり、超高齢化への対応というあたりも方向性として市民が考えているという点から、このあたりにも安全・安心に加え、健康に対する市民意識の高まりといったような見せ方をするといいと思いました。３点目はそれに関連してですけども、６ページの３つの将来都市像の３番目のところでは、１番目が「経済・拠点都市」、２番目が「文化・教育都市」と続いて、最後が「環境・福祉都市」となるんですけれども、私のイメージかもしれませんが、福祉というと少し受け身的で、先ほどの躍動とか動的ということを打ち出していこうとする時に、少し権利とか契約だとかのイメージを生む言葉かなと思うので、ここも躍動とか活力ということを考えると、環境・健康都市といった、保健・医療・福祉・介護を包括するような前向きな言葉で見せるほうがいいと思いました。安全・安心で健やかにと書いているので、ここで健康じゃないかということになるのかもしれませんが、ここも健やかというとどちらかというと子どもをイメージしやすい、子育ても重要な課題なので、それいいかもしれませんけど、少し見直す余地があるのかなと思いましたので意見として述べさせていただきます。

○越宗会長　はい。

○梶谷委員　よくまとまっているなと思いながら、少し違和感があります。資料１の６ページ、将来都市像の２番目に、未来を生きる豊かな人間性と創造力を育む「文化・教育都市」とあるんですが、いままでは文化・スポーツがこういうところにあったと思うんです。なので、１番目の経済・拠点都市のほうに文化・スポーツを入れたらどうか。というのは文化・スポーツは交流の非常に大きなポイントで、それによって他所からも人が来る。地元の人が文化とかスポーツを楽しむということもありますが、文化・スポーツによって交流人口を呼び込むという意味で、どちらかというと１番目は「経済・拠点都市」というよりも、「交流・文化都市」にするのがいいのではないかと思います。岡山市には大学がたくさんあり、そういう点では学会とかを外部から呼んでくることも大きなポイントになる。その受け皿としての交通基盤の整備につながる。そういう括りのほうがいいような気がします。ですから、２番目は教育とか子育てしやすいという意味で、教育に絞ってしまってもいいのかなと思います。そして、大学のことがひと言も触れられていないので、いかに大学を将来ビジョンの中に組み込んでいくか。大学と一緒に、また市民と大学が一緒になって岡山市づくりをしていくという視点が２番目のところに入ってもいいのではないかと感じました。

○越宗会長　はい、小山委員さん。

○小山委員　はい。この３つの将来都市像というのは本当によくまとまっていると思いますが、常々考えるのに、たとえば岡山にある後楽園は日本の三名園の１つに指定されている。これを金沢の兼六園と水戸の偕楽園とで比較をしてみたら、集客が全然桁違いです。要するに岡山城があって、後楽園があって、これにどう取り組んで人を集めてくるかがポイントだと思います。来て、そこを見て、あと何があるのというような感覚にとられている。せっかくそういう名所があるならば、周辺にたとえば食べることの面を訴えるとか、あるいは岡山には農産物があるから、それを広めていくコーナーを作るとか、何かブランドをあの周辺につけていただいて、岡山に来たらこんな楽しいことがある、こんなお土産があるというような大々的なアプローチができないのかなと。こういうところから本当のまちづくりをしていかないといけないように思います。

　もう一つは安全の問題ですけれども、今、連合町内会では自然災害に対する防災・安全に関して、本当にどこの連合町内会も必死になっていろんな訓練を続けています。本当に頼もしいなと思いますね。地域の住民や子どもさん達も巻き込んで、訓練をやっているというのは本当にすごいなと思います。これからますます浸透していくんじゃないかなと思っています。その中で、これから一番大切なのは高齢者です。ご承知のとおり介護制度が変わってきました。介護で認定される範囲が狭くなり、認定されないランクの幅が広がってくる。この問題をどう解決していくかが各学区の課題になっている。これは行政だけで

は対応できません。地域と行政が本当に一緒になって、タッグを組んでやっていかないといけないのかなと私は思います。たまたま私どもでは、来年４月から介護にかからないランクの問題を地域でどう関わっていくかということをスタートさせる準備ができているところです。おそらくますます地域はそういう問題が出てくるのかなと。だからやはり安全というのは自然災害における安全の問題と、高齢化に伴っていく安全確保という、２つが出てくると思います。ですからこれはやはりどちらも連合町内会をなくしてはできないことなので、そのへんがこれからの大きな課題だろうと。私も連合町内会の代表として、これから一生懸命それに携わっていきたいなと思います。以上でございます。

○越宗会長　髙旗委員さん。

○髙旗委員　本当に多様にわたる課題を、このように丁寧に整理をしていただきまして、ありがとうございました。私も今回、事前に送っていただいた資料を拝見していたんですけれども、すごく分かりやすくてよかったと思っています。その上で、いまここで話しているのは長期構想ということですので、おそらく１０年という単位で考えているであろうということですね。事前にいただいた資料の中の、まち・ひと・しごと創生総合戦略のほうですね、こちらは５年だと。この２つがどう関連してくるのかということが資料上よく分からなかったんですが、今日新しくいただいた資料で、多分これは後でご説明がきっとあるんだろうと思うんですけれども、こちらに岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の資料４－１があり、その最後に参考という形で左側に１０年の単位で目指すべき都市像が３つ並んでいて、それに対して、この５年は何に取り組むかという基本目標１、２、３、４というのがあります。これを最初に見せていただいたほうが、全体像がより詳しく分かるかなと思いながら見させていただきました。

いずれにしてもこの１０年の間で、経済・拠点都市を目指す、文化・教育都市を目指す、環境・福祉都市を目指すと。こうした長期的な１０年のビジョンに対して、さしあたりこの５年間はこういう基本目標を設定して、このような関連性のもとで動いていくんだという、かなり具体的なものが、このあと説明があるんだろうと思いますので、まず先にその全体を出していくということが、一般にお伝えする上においてもいいのではないか。その際にちょっと同じような言葉が、いろんな文脈で使われ方をしているところがあると思いますので、具体的に今どれがそうかというのは申し上げにくいんですけれども、多少そのへんの用語の整理をしていただいておくといいのかなと思いました。

もう一つは、教育ということに特化して、こんなことは言わずもがなと言いますか、釈迦に説法のような気もするんですけれども、ぜひこういうことを考えていただきたいと思いますことは、人口減少ということが当然あるわけで、そのことに対して、いわゆる学校の統廃合という問題は、不可避的に生じるというところがあるわけです。そのことが経済の論理でいえば、小中一貫教育というものがそのような文脈でとらえられる。しかしなが

ら、これを教育の論理ということで考えますと、やはり地域に学校という拠点がないと地域が疲弊していくことも当然起こります。というふうに考えると、子どもの人口減少ということのみをとって、学校の統廃合という議論を教育行政の中で起こしてしまいますと、全体のまちづくりということを鑑みた時には、かえってマイナスに作用するということが当然ございます。そのあたりの横の連携というものがきちんと取られながら、まちづくりというものと学校がそこにあり続けるということとの関連をさまざまにとらえていただくような、そうしたご検討をしていただければと思っております。

あと全体にかかって申し上げますと、躍動感のあるということは私も確かに重要だとは思っているんでけども、あまり自分の感覚で申し上げるといけないんですけれども、どうも私、松江で長く過ごした経験があるものですから、あまり騒々しくないほうがいいなというのがどこかにあります。しっとりと穏やかで、歩いて楽しめる岡山というのがすごくいいなと思っています。そういう点で、駅から後楽園辺りまでの回遊性というものを高めていくことによって、袖すりあえるまちづくりということができていくと、文化的な香りがさらに高まっていくのではないかなと思います。文化的と申し上げるのは、在来のものや伝統的なものを大切にするということも当然ですけれども、若い人たちが創造的に作り出していくという意味での文化というものを柔軟に受け入れていきながら、それが発展していく。多分それは人と人が出会う、関わり合いの中でこそできうるので、そうした意味での回遊性を高めるということはすごく重要だと思っています。十分なことが申し上げられませんが、以上です。ありがとうございました。

○越宗会長　はい、それでは塩見委員さん、お願いします。

○塩見委員　ありがとうございます。いいようにまとめていただいていますが、まず１０年で市民が変化を実感できるということが重要かなと思います。その時に、成果がどうということで、経済活動、課題の１番目の活力・躍動というところで、非常にこれ、力を入れていただいているので、これで良いと思います。それから２番目の育む・拓くのところの４番目、市民主体の都市をつくるというのが、どういうことなのか中々イメージできないところがあるので、もう少し説明がいるのかなというふうに思います。それから３番目の安心・調和のところは、これだけの分野、健康・医療・福祉、安全・安心、環境とありますと、やはり高齢者の方もいらっしゃるので、やはり福祉という言葉、福祉都市というのが私はいいのでないかと。やはり医療・介護等も含めまして、大きな意味で福祉の充実ということは、高齢者にとって非常に大事だということもありますので、そういうことを考えておりました。

○越宗会長　はい。それじゃ、泉副会長。

○泉副会長　私のほうから２つほど。髙旗さんもおっしゃいましたように、未定稿なんですけど、人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略で、３つの戦略が均衡を保っているといいますか、横並びで比べた時にそう変なことを言っていないというふうに思いますので、議論の成果、いろんな分野で、特に創生戦略に関してはいろんな人の意見をさらに入れていくと思うんですけれども、はっきり言うと思うところはみんな一緒だねというふうに思います。したがって、３つのビジョンといいますか、戦略で均衡を保っているということで、私はそれでいいんじゃないかと総合的にはそう思います。

最後に一つ提案なんですけれども、なんかキャッチフレーズみたいなものがあったほうがいいんじゃないでしょうか。私の提案ですけども、こういうふうなものは基本的に市民の満足のためにやるという、ユーザーが市民だというふうに思った時に、シチズンの満足、サティスファクションなので、それを実現するために、こういうことをやるんだから、たとえばＣＳ岡山とかですね、なんか簡単に言えて誰でもいつでも言えるような、そういうふうなプランがあったらうれしいかなと思いました。以上です。

○越宗会長　私もいま泉さんが言われた、分かりやすい、誰でもイメージがわくような、そういうキャッチフレーズというのは大賛成であります。３つの将来都市像、いろいろ論点をまとめて整理するとこういうふうになるのでしょうけども、この言葉自体をもう一歩踏み込んだ表現というか、メッセージ性の強い都市像表現というものができないかなということも感じました。たとえばお隣の広島県の東広島市は、広島大学があるものですから、日本一の教育都市とか、そういうことを謳っています。そこまでいかないにしても、単に文化・教育都市と、いってみれば無難にまとめるのではなくて、これは文化・教育都市と環境・福祉都市をミックスしたようなことになりますが、岡山の特色というか、ＥＳＤの成果を踏まえて、世界に発信する環境・教育都市としてみるとか。あるいは環境、福祉、医療などを含めた部分では、岡山は医療・福祉環境が非常に集積しているわけですから、そのことをもっともっとＰＲするために、西日本の拠点となる医療先進都市と謳いあげるとか。もう少しそんなことをやってもいいんじゃないかなという気がいたしました。

それから、これは阿部委員さんが触れられたんですけれども、まちの課題と魅力ということで、中途半端さというものが挙げられている。確かにそういう意見が多く、都会の要素と田舎の要素の両方を結び付けているとのプラスの評価がありますけども、どちらかというと日本語の語感としては否定的な要素が強い。これをあえて強調しなくてもいいというか、抜きんでたアピールポイントはないけれども、そのへんの豊かさ、多様性にあふれているのが岡山だと言っているのではないかと思うので、そういう意味では総花的な豊かさ、あるいは多様な魅力というものと置き換えてＰＲしてはどうか、と。つまり岡山市、これは岡山県もそうでしょうけども、それなりにそこそこなんでもそろっているダイバーシティの街とか、そんなふうに前向きにとらえてキャッチフレーズができないものかなと思います。

いろいろ部分的にはありますけれども、４ページの岡山市の強みと特性の中で、杉山委員さんが触れられましたが、古代吉備、岡山城という地域資源があり、全国的には知名度の高い資源なのに、地元の市民が本当にそこまで思っているのかといつも感じております。そういう歴史遺産とか文化財、オリエント美術館とか林原美術館とか、吉備津神社とか、いろいろあるんですよ、岡山には。ですから、そういう歴史文化遺産について理解を深めるというか、自信を持って内外にそのことを発信していくことが大切だと思います。杉山委員さんがおっしゃるように、やはり教育、小学生の頃から郷土愛を育むような、歴史文化に触れる機会というものを、もっともっと増やしていくことが大事ではないかと思います。市民意識調査のワークショップの中で、そういう意見がけっこうあったように思いますので、私は意を強くしたんですけれども。大体そのようなことだと思います。皆さんからひと通りご意見を。

○梶谷委員　資料１の２ページの新たな総合計画の方向性のところに、中心部と周辺部のバランスのとれた発展という言葉があるんですが、これがどういう意味か非常に分かりにくいと思います。中心部と周辺部をほぼ同じようにしようというのか、逆に中心部と周辺部できちんと役割分担をしてやろうというものなのか。

○事務局（門田）　ただいまのご質問ですけれども、基本的には中心部と周辺部が同じようになるとは考えておりません。なので、やはり役割分担という言葉が適当かどうかということはありますけれども、周辺部では多様な地域資源を生かしたまちづくりをしていって、中心部と周辺部とのネットワークをきちんととりながらやっていくということで、岡山市全体としての魅力を高めていきたいということで書かせていただいています。

○梶谷委員　少し言葉を補足したほうがいいのかなという感じがいたしました。

○越宗会長　ほかにはございませんか。はい、どうぞ。

○杉山委員　いろいろなアイデアが出ていますけれども、現在の第５次の総合計画はガーデンシティがコンセプトで貫かれているので、この２ページ目の庭園都市の安定的なイメージを生かしつつという言葉があるのでしょう。私はやはり岡山は教育とか大学の街だと思っているので、組織論の中で展開される企業が「学習する組織」という、ずっとＰＤＣＡサイクルを回し続けるという、「ラーニングオーガナイゼーション」という表現がよいのではと思っています。あくまで個人的な意見ですけど、「ラーニング＆イノベーティングシティ」みたいなことを目標にされるといいのではないかなというふうには思っています。

○越宗会長　はい。大体ひと通りご意見をいただいたようですので、ここで各委員さんか

らの意見、感想につきまして、大森市長さん、何かお感じになったことをお話いただければと思いますが。

○大森市長　実は私、若い人たちのワークショップに出て、結構、いろいろと意見を伺った中で、頭の中に、心の中に入っていった言葉として、岡山って動いてない、他都市に比べて動きが少ないというのが１つありました。２つ目として中途半端という言葉を述べる方が何人かおられました。これは越宗会長がおっしゃるように決してポジティブな意味で使っているものじゃないんじゃないかなと思います。逆に中途半端だからいいという人もいることはいるんですけれども、中途半端というのは必ずしもその人たちはプラスイメージでは使っていない。そして最後に、これは割と共通的に言っていた言葉は、この街に誇りを持ちたい。持ってないと言わないんですけど、いわゆるもっと胸を張って言えるような存在になったらいいなというようなことを随分おっしゃっていました。

通常付き合っている方々とちょっと違う感じを若い方々から受けて、それらを今回踏まえさせていただいて、こういう形でまとめさせてもらったんですけれども、やはり今後岡山ってどういう方向に持っていくのかという中に、若い人たちの気持ちをどのように入れていけばいいのか。そして具体的な施策として何をプライオリティを高めてやっていけばいいのか、そのあたりのところが一番気になるところでありまして、そういう面では、多分これを詳細にこれから若い人たちが読んでくれるとは思わないので、おっしゃったようにキャッチフレーズですとかね、どういう方向で我々は動くべきなのかという、そういう方向性の議論をぜひ固めさせていただければなというように思うところであります。越宗会長がおっしゃったように、表現的にまだ、我々がやると、この未来を生きる豊かな人間性と創造力を育むでは、何を言っているか分からないと思います。そういうのを強めに出していきながら、これからの岡山市が求めていく大きな方向性を、まずまとめさせていただければありがたいなと思っている次第でございます。よろしくお願いいたします。

○越宗会長　ありがとうございました。なんといいますかね、若い人、ワークショップでそういう意見が出たという市長のお話ですけども、私は個人的にはですね、若い人の自己肯定感の低さというんですか、もう少し、なんでもう少し肯定的に見られないのかなという、とかく否定的に、さっきのもそうなんですけどね。やはり自己肯定感が低いと、他人に対しての思いやりとか痛みを知るということも当然低くなってくるわけですから、もう少し若い人に自信を持たせて、素晴らしいぞという思いを持たせるように何とかしていかないといけない。

○大森市長　私がちょっと衝撃的だった資料、これは今あるのかどうか分かりませんが、指定都市の中で比較しているのがありまして、自分の都市に対しての満足度というか、住み続けたい、そういうものの比較があるんですね。そうなるとですね、岡山市って決して

高くない。これが一体何からきているのか。多分一人ひとりやるとそうでもないんではないかと。住み続けたい人の大都市比較というでは岡山市が７９％なんですけど、ちなみに隣の広島市は８９．８％です。福岡市にいたっては９１．９％になっているんです。あと本来であれば低そうな千葉市、これ首都圏の中にある。こういう言い方がいいかどうかは分かりませんけども、私はそのあたりに住んでいた時にそんなに住み続けたいとは一切思わなかったんですが、８７％もあるんですね。札幌が８６．３％。そんな感じで、会長がおっしゃるように、なんと言いますか、自己肯定という面がちょっと低い。これが一体何からきているのか、みんなでやはり自分の街を盛り立てていこう、盛り上げていこうということが、これから重要なんじゃないかな。個人個人はそうでもないけど、ちょっとシニカルになるところも多々あるような気もしますね。そういう時に行政の役割って一体何なんだろうか。そういうのを今回の中で表現をしたいなと。そういう面では泉さんがおっしゃったようにサティスファクションの向上になるのかもしれませんけれども。はい。

○越宗会長　本当に私はもう少し岡山の街は素晴らしいと、自惚れ屋がね、もっともっと出てほしいなと思います。はい、ありがとうございました。それではですね、今日の協議事項の２に入っていきますが、岡山市の人口ビジョン案、さらに岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略案につきまして、まずは事務局から説明をお願いいたします。

３　協議事項（２）岡山市人口ビジョン（案）及び岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

○事務局（二宮）　失礼します。政策企画課の二宮と申します。恐れ入ります、座って説明させていただきます。それでは次第の２、岡山市人口ビジョン及び岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略案についてご説明いたします。

この総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、新たな総合計画の長期構想を勘案しながら、歩調を合わせ本年度末に策定することとしておりましたが、国の方針に合わせスピード感を持って取り組むこととし、１０月末の策定といたしました。委員の皆様には事前に素案を送付させていただいておりましたが、数値目標等を加え、この度、案としてお手元にお配りしております。それではお手元の資料４－１、Ａ４判横の岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略案の概要版により説明させていただきます。この案は国、県の総合戦略、また岡山市人口ビジョン等を勘案して策定しております。そして現在策定中の新たな総合計画の総合的な体系のうち、地方創生の観点から四つの基本目標を設定し、関連施策を取りまとめたものとなっております。したがいまして、総論の根幹の部分は新たな総合計画に委ねておりますが、国の動きを勘案し早急に策定する必要があるため、地方創生に特化した部分を抜き出しまして、先行して策定するものでございます。また新型交付金等の新たな財源を活用するなど、戦略に盛り込んだ取り組みを積極的に推進してまいります。そしてこの計画期間は、平成２７年度から３１年度までの５年間で設定をしてお

ります。重要業績評価指標などから、その達成状況を毎年度評価し、必要に応じて改定してまいります。

次に地方創生の取り組みの考え方でございます。我が国は人口減少期に突入しており、岡山市も２０２５年頃をピークに人口減少期に突入することが見込まれ、中長期的な生産年齢人口の減少や東京への一極集中など、若い世代の岡山への定着を進め、人口の流出に歯止めをかけることが急務となっております。ここで申し訳ありません、別冊の資料３、岡山市人口ビジョン案の１５ページをご覧ください。図表１７岡山市の将来人口推計です。岡山市人口ビジョンでは、これまで審議会でお示しした２０４５年までの基本推計を、同じ考え方のもと２０６０年まで推計しておりますが、現状で推移すれば２０６０年には６１万２千人程度となる見込みです。青のラインが基本政策審議会でもお示ししている基本推計を２０６０年まで推計したものです。この推計をもとに合計特殊出生率について、国が長期ビジョンで示す２０３０年に１．８程度まで向上し、２０４０年に人口が安定的に維持できる人口置換水準である２．０７に置き換えた場合、上の緑のラインになり、２０６０年には６９万２千人程度となる見込みです。この緑のラインを将来展望推計とし、これを展望しつつ総合戦略を着実に実行することにより、人口減少傾向を抑制し青色の市基本推計人口水準の引き上げを目指すこととしております。

恐れ入ります、資料の概要に戻りますが、この人口ビジョンによる岡山市の人口減少対策の方向性として、一つは若者が進学・就職等を契機に首都圏へ転出する傾向が強いなど社会減への対策の必要性、もう一つは市民の出産・子育ての希望を実現し、出生率を高めるなど自然減への対策の必要性が挙げられます。このような観点を踏まえ、戦略策定の着眼点としまして、ここへ掲げております、岡山市の強みと特長を活かしながら４つの基本目標を設定し、総合戦略の案を策定いたしました。概要の２枚目をお開きください。社会減対策としての基本目標１、岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出するとして、市内就業者数など成果を計る指標を設定し、主な取り組みとして、新たな雇用と成長を促す戦略的な産業の振興や、歴史文化資源等を活かした観光誘客の促進など、主に地域経済の好循環を生み出すための取り組みを挙げております。次に基本目標２は、岡山市への新しい人の流れをつくるとして、転入超過者数を指標とし、移住・定住の促進など、主に内に人材を留め、外から人材を呼び込むための取り組みを挙げております。資料３枚目をお開きください。自然減対策といたしまして、基本目標３は若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとしまして、子育て支援・児童福祉施設の満足度などを評価指標とし、保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消など、主に総合的な子育て対策や女性の活躍推進に向けた取り組みを挙げております。基本目標４は時代に合った安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携するとして、コンパクトでネットワーク化されたまちづくりや地域連携の推進など、主に生活するうえで安心につながる取り組みを挙げております。以上が４つの目標と、それを実現するために取り組む施策でありまして、これを着実に実行することにより、人口減少を抑制し活力ある地域社会の維持に努めるもので

す。以上、総合戦略案本編の内容を、この概要により説明させていただきました。
　最後に概要資料の４枚目は参考として、総合戦略体系と新たな総合計画の体系案の関連性をお示ししておりますが、先ほどもお話が出ましたように、総合戦略では地方創生の観点を総合計画の部分から抜き出して表記しておりまして、すべてが関連性を持っておりまして、新たな総合計画体系案に結びついております。説明は以上です。よろしくお願いします。

○越宗会長　はい、ありがとうございました。そういうことで、それでは岡山市人口ビジョン案、それから岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略案につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

○梶谷委員　ありがとうございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略、おそらく国が全自治体につくれという中で、つくっているんだろうと思いますが、地元に人が定着して次の世代を産み育てるということは、行政では中々できない課題だろうと思うんです。ということは、いかに岡山市の産業界や市民がその気になるかどうかというところが大きな課題になる。だとすれば、総合戦略をとりあえず立てられていますが、本当にやらないといけないのは、行政と市民、企業とが一緒になって、この地域をどうするかということをお互いに確認しながら、それぞれの責任を果たしていく。そのためのプラットホームをつくるということが、この中のどこかにあるといいのではないかということを感じました。そうしないと、おそらく行政が旗を振っただけでは中々動かないのが現状だろうと思います。いままでの行政のいろいろな施策が立ちいかなくなったところは、そこに大きな原因があると思いますので、市民や一つひとつの企業がその気になって、一緒にしないと大変なことになるよね、ということを確認していく。そのようなことをどこかに、４のところになりますかね、ぜひ織り込んでいただきたいと思います。

○事務局（二宮）　ありがとうございます。総合戦略につきましては、これまでも市民会議等でいろいろなご意見をいただきまして、資料４の１ページの総合戦略の基本的な考え方の位置づけのところに、まち・ひと・しごと創生と好循環の確立という形で、行政のみならず、産官学金労言、いままで市民会議等の開催のもとご意見をお聞きしておりますが、これからも検証作業等でご意見をお伺いしながら、必要に応じての改定のほうも考えてまいりたいと思っております。以上です。

○越宗会長　はい、どうぞ。

○小松委員　本当に、こんなアホな取り組みに、真面目に取り組まれたことに敬意の念を持ちますが、ただ、つくったものが、せっかくのご労苦が報われるためにということで、

私、ずっと今日考えていまして、区が出ないんですね。中区、東区、南区、北区。区長さんて、どんな人なのかという気がするんです。権限とか予算とか、まったく区長の顔が見えない。区長という名前でいいんですかね。区長でいいんですよね。私の専門は農業協同組合論ですが、とにかくでかくなりすぎているという話。大男総身に知恵が回りかねという言葉が昔からありますけど、すかすかみたいなことになっているんですね、協同組合でも何でも。岡山市も良い悪い抜きに大きくなった。でもやはり地方創生というか地域創生というか、そういった統治者意識をお持ちになった、そういう市民参画型での取り組みというのが、いかなる時代になっても必要じゃないか、片方で浮世離れしたようなグローバル化、グローバル化という中であるゆえに、地域に地の足のついた取り組みをやっていかなければならないと私は思います。そういう時の旗振りといいますか、リーダーシップを持つのは、僕は区長さんではとりあえずはないのかなという気がするんですけど、非常に影が薄い。区の影が薄い。それで最初に地縁組織がどういうことなんでしょうかと質問した時に、その間が抜けているという気がして、結論は、こういうまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、区の役割みたいなものをどこかに入れ込まれるというのは非常に意味があるのではないかなと、そういう提案です。以上です。

○越宗会長　はい、事務局。

○事務局（門田）　今、区の存在が見えにくいというご指摘があったんですが、岡山市のまちづくり、いろんな分野がありまして、分野ごとに本庁があって、そこで総括していく中で、地域の実情とか実態は区が一番よく知りうる立場にありますから、住民の方の意見をしっかり聞いて区の実情を反映した施策をつくっていく必要があるということで、実は総合計画の中でも、いまは長期構想をご議論いただいておりますが、今後、中期計画、５年の中期計画をつくる中では、区別計画という名前にするかどうかは分かりませんが、区についてのまちづくりの方針のようなものを中期計画の中に入れ込んでいきたいなと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○越宗会長　はい、どうぞ。

○杉山委員　国の施策をどう落とし込んでやるか、やるべきなのかどうなのかというのは分からないんですけど、ＫＰＩで管理しようというのが意図で、たとえば２２ページは、ワーク・ライフ・バランスなんですけど、これ前にもワーク・ライフ・バランスの時にお願いをしたと思うんですけど、男性も女性も仕事と家庭を両立できるのがよいと考える市民の割合のアンケート調査をとって、これをここに書く以上は毎年アンケート調査やらいないといけないことになるんですよね。これを考えている割合なんて、そんな甘ったるいこと言わないで、岡山市だったら管理職の３分の１は、何年までに女性にするとかですね。

そういうふうなＫＰＩを入れないと。ざっとしか見ていませんが、ＫＰＩは正直に言いますとちょっと乱暴だと思いますね。とは言いながら、１０月の末までにしないとダメなので、多分今日審議したことにして、これでＯＫになったとやらないと仕方ないんでしょうけど、やはりちょっとＫＰＩは乱暴すぎるとコメントさせていただきます。

○越宗会長　事務局。はい、どうぞ。

○事務局（二宮）　ＫＰＩにつきましては、総合計画のほうと整合性を保っておりまして、総合計画の長期構想の期間、３７年を基準といたしまして、この総合戦略のＫＰＩにつきましても数値をはじいているような内容です。それから先ほどの管理職に占める女性の割合でございますが、戦略の１３ページでございます。１３ページに、一つは多様な人材が活躍できる環境づくりといたしまして、岡山市役所の管理職に占める女性の割合なども、ここで設定をさせていただいております。

○越宗会長　よろしいですか。まち・ひと・しごと創生総合戦略の、この資料の４の、そうですね、観光誘客の促進も１０ページからありますけれども、最初の長期構想の議論の中で、小山委員さんが後楽園について触れらました。私どもの新聞記事にもありましたが、２０１４年度に岡山市の観光案内所を訪れた外国人はフランス人が２年連続最多であったと。これはミシュランで後楽園が三つ星になっているという効果だと言われています。特に後楽園、あるいは岡山城に行くルート、案内看板が非常に分かりにくいという声が前々からありましたけれども、ＪＲ岡山支社が来年春から岡山駅東口を後楽園口にすると、それから吉備線を桃太郎線と名称変更するということを決めて、来春から使用するという発表をしました。やはり海外、それから県外の観光客が岡山駅に下りてから、後楽園にしろ、岡山城に行くにしろ、もっともっと分かりやすい岡山市にしなきゃいけないんじゃないかと。これは県との協議等いろいろ必要なんでしょうけど、やはり後楽園をはじめとする海外からの観光客を呼べるような観光資源を持ちながら、もう少し親切にしなきゃいけないんじゃないか。それはやはり我々が観光戦略を練るということで、長く慣れ親しんでいる手法、あるいは市民感覚から少し、ちょっと一旦離れて、先入観を捨てて、海外客、県外客の目線というものをもう少し一から考えてみてはどうかなという気がいたしました。

　それから１７ページの日本版ＣＣＲＣ構想の推進。これは政府の方針で、要点が強調されているんですけども、現実問題としてどうなのかなと。慎重な検討が要るんでしょうけども、確かに医療・介護体制が充実している岡山市はまさに適地だといえると思います。医療・介護だけじゃなくて、都市近郊の農園とセットでそういう場を用意するとか、あるいはカルチャー教室、公民館講座、岡山の得意な公民館講座で、そういう人たちを優遇するとか、講師になってもらうとか、いろいろなアイデアを、企画力を駆使すれば、これも岡山は存分に存在感を発揮できるのではないかなという気がしました。ちょっと細かいこ

とですけども、そんなことを思いました。そのほか何かございませんか。

○小山委員　よろしいですか。

○越宗会長　はいどうぞ。

○小山委員　これからこの総合戦略に沿って具体的にやっていくんでしょうけども、私、常々思うんですけど、行政がこれをやっていくといったら、相当の努力がいるだろうと思います。努力というのは行政だけじゃなくて、先ほどありました、区をどうするんだとか、地域とどうつながっていくかということなんだけど。まず私、一つだけお願いしたいのは、市の職員の営業能力の養成をしてほしい。営業のできる職員をつくってほしい。それがこれからの大きな戦略だろうと思います。いずれにしても強い岡山をということになると、やはりそこに少し目を向けて、営業戦略をしっかりと出していただきたいと。そのためには行政職員の営業能力を養っていただきたい。これだけ私のほうからお願いしておきます。

○越宗会長　そのほか特にございませんか。はいどうぞ。

○岡本委員　すいません。ここ数回出ていないので遅れているかもしれないですけど、基本目標４のところに、時代に合った安心に暮らせるまちをつくりと書いていただいているんですけど、時代に合ったというのはどういうことを指しているのか、ちょっと教えてほしいというのが一点と、あとここは、安心にということを出しておられますけれども、先ほどの長期構想の基本的な考え方の中では、安全・安心という言葉で、安全という言葉が入った都市像が出ているんですけども、安全はどこにいってしまったのかなと。安全は出したほうがいいのではないかと思います。これは意見です。

○越宗会長　事務局、いかがですか。お願いします。

○事務局（二宮）　時代にあったということで基本目標を定めておりますが、時代に合ったというのは、現状で取り組んでおりますコンパクトシティでありますとか、８市５町で取り組んでおります広域連携の取り組みなどを想定しまして、時代に合ったというような形で表現をさせていただいております。

○越宗会長　よろしいですか。

○岡本委員　少し浮いている感じがします。

○小松委員　必要ないかもしれないですね。

○泉副会長　私のほうから一つ。全体を眺めてみますとですね、投資という点でみた場合に、すごく前のめりの投資をやりますよとは一切書いてないんですよね。したがってややダイナミズムに欠けると思うのはそういうところかと思うんです。ただ一般的には、いろいろな制約条件があるので、この程度に収めておかないと市民の満足を得るために、あれもやる、これもやるというプランを出すと言ってみるだけでできないと思います。それから持続可能性がなくなるというのが一番困るので、この程度の表現になさっていたほうが投資の点でみてもよろしいのではないかと思います。

３　協議事項（３）その他

○越宗会長　気持ちは前のめりです。いろいろ出ましたけれどもありがとうございました。ほかにないようでございますので、協議事項の３、その他に移りたいと思います。事務局から何かありますか。

○事務局（門田）　次回以降でございますが、１１月末の答申に向けまして、長期構想の具体的な案をお示しして、ご議論いただきたいと考えております。開催日程につきましては１１月６日の１０時から、それから１１月１６日の１０時からを予定させていただいておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

○越宗会長　はい、ただいま説明がありましたように、次回以降の２回の審議会におきまして、１１月下旬の答申に向けての審議を行っていきたい、締めくくっていきたいと思います。委員の皆さん、なにとぞご理解のうえご出席いただきますよう、よろしくお願いをいたします。それでは本日の議事はこれで終了となりますけれども、最後にもう一度大森市長からお話をいただければと思います。よろしくお願いします。

○大森市長　さまざまなご指摘をいただきまして、ありがとうございます。一部修正をさせていただきたいと思っております。ただ私として、先ほど少し申し上げましたけれども、市民の自己肯定感が低いのは非常に気になるところではあります。これからの岡山をどうそれぞれ市民が考えているのか、そして市民の満足度をどうやって高められるのか、そのあたりのところをどう表現していけばいいのかというところが、多分これからのポイントになってくるんじゃないかなと思うところであります。今日の議論は十分踏まえて修正などをやりますけれども、別途お話を個別にいただきながら、こういうふうにやったほうがいいんじゃないかというお話があれば、次回の議論の前にそれぞれ少し教えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（植月）　これをもちまして本日の平成２７年度第６回岡山市基本政策審議会を閉会とします。皆様お疲れさまでございました。

閉会